

平成19年度「ハート・オブ・ゴールドと取り組む国際理解教育学習」 実践報告書

学 校 名 : 岡山市立平福小学校
 学 校 長 氏 名 : 池田 滋
 所 在 地 : 岡山市平福1 - 7 - 1
 実施学年及び人数 : 第6学年(108名(男56名/女52名))
 授 業 実 施 期 間 : 平成19年4月~平成20年2月
 担当教諭(報告者)氏名 : 太田 敦子

1 総合単元名

世界の子どもたちの現実を見つめ、みんなが幸せになるために、
何ができるか考え、実行しよう

2 学習活動内容

学 習 活 動 内 容	
1 学期	<p style="text-align: center;">1 学期のテーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>世界の子どもたちの現 実や 国際協力に取り組む団体の活動について調べよう</p> </div> <p>田代先生のお話を聞く会 (平成19年6月12日) ねらい: 田代先生のお話を聞くことにより、世界の子どもたちのくらしの現実やその原因、田代先生が大切にされている思いについて知ることができるようにする。</p> <p>主な学習内容: カンボジアの子どもたちのくらしの現実(戦争に巻き込まれた子どもたち・学校に行けない子どもたち・働きづめの子どもたち・栄養不良や水不足に苦しむ子どもたちなどに関する事)や支援活動で大切にしている思いについてお話をお聞きした。</p> <p>児童の様子: <small>(児童の感想から)</small> 話を聞いて人が亡くなることがどれだけつらいかということが分かった。 HGの方々がハーフマラソンに欠かさず参加したり、支援活動を行ったり、しておられる話を聞いて、自分も世界の子どもたちのために協力したいと思った。 カンボジアの人たちは日本の子どもたちより笑顔が絶えない、ちょっと何かがあっても笑顔でいるということが分かった。そして、そ人たちをかわいそうと思ってはいけなかった。また、HGの活動によって多くの方が笑顔になってきていると感じた。 カンボジアの人たちは心の金メダルを持っていると思った。 まずは、自分ができることから、しっかりやっていきたい。</p>
2 学期 ~ 3 学期	<p style="text-align: center;">2 学期のテーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>外 世 界の子どもたちが幸 せになるために、 自分たちにできることを考え、支援している団体の方といっしょに、 実践活動しよう</p> </div> <p>1 学期に自分たちが調べたことをもとに、実践したいことを出し合い、グループごとに外部専門家の方々へ活動に関する質問をメールでさせていただいた。それをもとに、必要とされている物を贈るなどの実践活動をおこなっていった。</p>

- ・カンボジア・ハーフ・マラソン大会へ贈り物（メッセージ入りタオル，はちまき）
 - ・るしなチャイルドケアセンターへの贈り物
（はり絵，千羽鶴，手提げ，文房具，野菜の種など）
 - ・アンコール子ども病院への贈り物（タオル，石けん，絵，千羽鶴など）
- 自分たちが一年間でおこなってきた国際協力実践活動を振り返り，5年生に向けて発表会を計画し，発表の様子をビデオに撮り，「自分が考える国際協力とは何か」について自分なりの考えをまとめ，学習を終えた。

3 成果と課題

世界の現実理解の段階，国際協力実践活動に取り組む段階にHGの方に子どもたちの学習を支援していただいた。2学期，相手が必要とする物を贈りたいという子どもたちの思いから，どんなものを贈ればよいか質問などをしたメールを送ったが，専門家の方々の忙しい時期とが重なり，十分に連絡を取ることができなかった。そのため，最終的に専門家の方々が望んでいる物を贈らせていただく結果にはならなかった。子どもたちの実践活動の時期を十分に考慮する必要があったと思われる。

子どもたちが調べたり専門家の方のお話を聞いたりするなどの活動を通して，「世界の子どもたちのくらしの現実」について知ることの他に，「相手のことをよく知ること」「相手の気持ちや必要としていることを考えること」の大切さに気づくことができた。

本校の国際理解教育に外部専門家の方々の協力は不可欠である。今後も，本校がこの国際理解学習で子どもたちに身に付けさせたいことは何かを明確にして，HGの方々に助けをいただきながら取り組んでいきたいと思っている。